



窪町だより

窪町小学校令和7年度4月号

窪町小学校ホームページ URL: <http://www.bunkyo-kyo.ed.jp/kubomachi-ps/>

「こころをいたす」

校長 西幅孝弘

桜が咲き始めた3月25日には、98回目の卒業生が、大空にゆっくりと浮かんでいくバルーンを見つめ、胸を張って校舎を後にしました。中学校でのさらなる活躍と健康を心から願っています。

新年度初日4月7日、校門をくぐる子どもたちの表情には、一つ学年が上がる進級の喜びと新しい友だちとの出会いにドキドキワクワクしながら、「今までの自分よりも成長したい」という願いが浮かんでいました。伸びようとするこころを大事に、そして真っすぐに育てていきます。



一年中、学校の花壇で元気に咲く花を見ると、子どもたちや保護者、地域の方々が人知れずお世話をしている様子が目に浮かびます。言葉を話すことのない生きものへ愛情を注ぐその光景は、「こころをいたす」姿だと私はいつも感じます。また、去年の冬、強い北風の中子どもが登校中に帽子をなくしてしまったと聞くと、通学につき添って来ていた保護者の方が、その通学路を探しに戻って行ってくださいました。「こころをいたす」という言葉が後ろ姿にまた重なりました。

千年ほど前、源氏物語「夕霧」にもつかわれていた「こころをいたす」という言葉は、真心を込める・心を尽くす・誠意を込めるという意味です。この言葉は千年の時の流れに耐えて現代でもつかわれる言葉です。当時の人が他者への大切な想いを表すためにつかわれてきたのだと思います。人とのつながりや、やさしさを大事にするという意味が必要だったから千年の間受け継がれてきたのだと思います。

ネット社会の今、ハイスピードよりも敢えてスローを、液晶の中ではなく実際のコミュニケーションを、批判よりも他者への温かい想いを強く意識するために必要な言葉であると考えています。

私たち教職員は、子どもたちのために「こころをいたす」ことを大切にしながら協働し、気持ちを新たに教育活動に取り組んでまいります。日々、留まることなく流れていく時間の中にあっても、一人ひとりの子どもにこころをいたし、そうして子どもたちが楽しみな気持ちで登校できる小学校をめざします。

子どもたちの心の中に、「早く明日にならないかなあ。」「早く学校に行きたいなあ。」

という気持ちが広がっていく教育を、本年度も引き続き大切にしていきたいと思います。

ご家庭で、時に子どもたちの小さな変化に気付くことがありましたら、保護者のみなさまと共に考え、悩みながら歩んでいきたいと思っております。いつでもご相談ください。

保護者のみなさま、地域・近隣のみなさま、関係諸機関のみなさま、子どもたちを包み込む全てのみなさま、本年度もご指導・ご助言・ご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。